

アンディ・ジャシー

アマゾン・ドット・コムCEO

法人向けクラウドに着目し AWSを収益の柱に

1994年に創業し、ビッグテックの一角として米国株時価総額5位（2025年12月上旬現在）の位置につくアマゾン・ドット・コム。EC世界最大手として知られるが、実は法人向けクラウドサービス「アマゾン・ウェブ・サービス（AWS）」が利益の約6割を占めていることをご存じだろうか。同社の「稼ぎ頭」であるこのAWSを立ち上げ、成長をけん引したのが、創業者ジェフ・ベゾス氏の後継者として2021年、CEO（最高経営責任者）に就任したアンディ・ジャシー氏（57歳）だ。



AWSはアマゾンの収益性向上に大きく貢献

米国ニューヨーク州に生まれ、ハーバード大学で学士号とMBAを取得。20代のうちは自身のキャリアを模索していたジャシー氏の能力が花開く契機となったのは、アマゾンへの入社だった。1997年、29歳で同社に入社したジャシー氏は、ベゾス氏の技術面でのサポート役を務めることに。自社のEC事業を迅速に展開するためのシステム構築を行うなかで「自社サーバーの余った能力を外部に販売できないか」と考えついたのが、AWS開発のきっかけだったという。

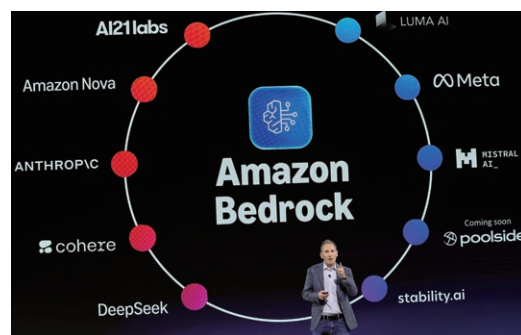
同事業を本格的に開始したのは2006年。安

価で高性能なクラウド機能は評判となり、ウーバーやエアビーアンドビーなど当時のスタートアップをはじめ、米航空宇宙局（NASA）などの政府機関やマクドナルドなど大手企業にまで販路を拡大。現在もクラウド市場の3割を占めるなど、世界シェアトップを誇っている。

ベゾス氏の信頼厚く 「生き写しの頭脳」と呼ばれる

「次の稼ぎ頭」として、ジャシー氏が今、最も力を入れている事業がAI（人工知能）分野での技術開発とグローバルサウスへの展開だ。データセンターへの投資を増やし、拡大するAI向けインフラの需要に対応するほか、人口増が見込まれるアフリカやインドなどの新興国でEC市場の開拓を進める。

入社当時、朝から晩までベゾス氏にぴったり付き従う「シャドー（影の分身）」という役割も経験したジャシー氏は、ベゾス氏の「ブレインダブル（生き写しの頭脳）」と呼ばれ、徹底した顧客中心主義やスピーディーな意思決定などの“ベゾス氏流経営術”を忠実に受け継ぐ。「世界最大のスタートアップのように会社を運営したい」というひと言に、彼の経営哲学が明確に表れている。



クラウドの顧客企業が生成AIを手軽に活用できるサービス「Amazon Bedrock」にも注目

写真：ロイター/アフロ

ベゾス氏の「ブレインダブル」と呼ばれる、クラウド事業を革新した後継者

Profile あんてい・じゃしー 1968年米国ニューヨーク州生まれ。米ハーバード大卒業後、収集品販売会社を経てハーバードビジネススクールにてMBAを取得。1997年にアマゾン・ドット・コム入社。社内システムだったクラウドをもとにAWSを開発し、急成長させる。2016年にAWSのCEO、2021年にアマゾンCEO就任。

主な参考文献：『amazon 世界最先端の戦略がわかる』（成毛眞著／ダイヤモンド社）、『ジェフ・ベゾス』（ブラッド・ストーン著／井口耕二訳／日経BP社）、『DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー』2025年9月号ほか